

投稿2023年11月11日
香川ブロック 高木 繁雄

『 伝統こけし収集 』

私の「こけし」収集の始まりは、昭和48年6月仙台に転勤して、半年位過ぎた昭和49年の春頃からです、そして東京に転勤する昭和55年迄に500本近く収集しました。集め始めたきっかけは、転勤辞令(写真①)の様にテレビ事業部北部販売課で東北営業部駐在です。仙台の東北営業部に机を置き、青森・秋田・山形が担当エリアでした。



最初の頃は販売会社との商談だけでしたが、次第に販売店への巡回をする様になりました。そして困った事に出会うのです。それは「方言」でした。相手の言っている事が分からずに苦労しました。先輩から「3度聞きはダメだよ」と言われていたので、何度も聞き返す事も出来ず、相手の言っている事が理解できずに悩みました。

そんな時、弘前で「こけしの店」に入ったのです。店の奥は工房でロクロが回っていて絵付もしている店でした。

時間があつたので、工人の店主に「こけし」の話聞く事にしました。当り前の事だが、店主は津軽弁で話をするため、全く聞き取れず、理解もできません。店主に転勤してきた事や方言が分かりにくい事を説明し、無礼を詫びながら会話を続けるなか相手にも事情が分かり納得して貰えました。その後も店に訪問し伝統こけしの事、工人の系列によって絵柄が違う事など話を聞くうち、津軽弁に耳が慣れて来て分かる様になってきました。これにヒントを得て弘前のこけし店で頂いた「伝統こけし工人手帳」を持って、青森・秋田・山形の、工人の所に直接訪ねる事を始めました。



写真① 昭和48年当時の転勤の辞令書



写真② 家で展示している「こけし」の一部。一番大きいのは1尺5寸（約45.5cm）

訪問して工人と会話をしては「こけし」を買うのです。段々と各地の方言に耳慣れて来て、喋れないが聞いて理解する事が出来る様になりました。その後はテレビの訪問販売に販売店の方と同行で、一般家庭を訪問した際にも会話ができる様になりました。方言の勉強のつもりで始めた、「こけし」工人回りでしたが、いつの間にか「こけし」収集癖が付き、気が付いたら「こけし」が500本位になっていました。今は100本程（写真②③⑤）飾っていますが、残りの「こけし」は段ボール箱に入り休眠中です。



③ 本棚に展示の「こけし」達

《伝統こけしについて》

☆「こけし」には新型・旧型の二種類あります。観光地などで売られている「こけし」は新型と言われ、「**伝統こけし**」は旧型に入ります。簡素で素朴で可憐なオボコです。

- ☆ 「伝統こけし」は、その形・描彩・木地師の系統・師弟関係から大体8系統に分類されると言われます。土湯系（福島県）作並系（山形県）弥次郎系（宮城県）遠刈田系（宮城県）鳴子系（宮城県）川連・木地山系（秋田県）南部・花巻系（岩手県）津軽系（青森県）です。



☆ 「伝統こけし」とは、「こけし」の系統としての型と描彩であり、親から子に、師から弟子へと引き継がれる物です。
また、「こけし」には、必ず工人名などが書かれている。

写真④ 伝統こけしには、必ず作者（工人）の氏名が書かれている。

◎ 「同じ顔・描彩の12本のこけし」何処にも無いオリジナル作品（写真⑤）。

秋田県、小安温泉の佐々木春男さん（S6年生で50才位の頃）の作。

大きさ= 3寸（約11cm）～8寸5分（約26cm）迄、5分刻み（1.5cm位）で寸法が違う12本
材料の木が全て違う=（小さい方から）五万木、梓、赤スモモ、桂、梅、槐、樺、百日紅、桜、
木木、合歡木、イタヤ、の12種類の違う木で出来ています。（別注の作品です）



写真⑤ 5分刻みで大きさが違い、材料の木も12種類の、珍しい「こけし」。